

「超」のつくやんちゃだった少年時代

両親が何の不自由なく、自由奔放に育ててくれたこともあって、小さい頃はとにかく「超」のつくやんちゃ坊主でした。保育園で喧嘩をすれば連戦連勝と、完全にお山の大将と化していました。いじめられるのが怖いから怒らせないように……と、登園するとみんな「俊ちゃん！」と笑顔で出迎えてくれていましたが、なかには登園拒否になってしまった子もいました。先生も困り果て、家に来て母に相談するのですが、私は「していない」と嘘をついていたので、母は私を信じてくれて、「うちの息子はそんなことはしていない！」とひたすら守ってくれました。小学校に進学しても、私は相変わらずのやんちゃ坊主。またしても担任が家に来ますが、私を信じて守る母の姿を見るうちに、さすがに申し訳ないな、と思うようになり、先生が帰られた後に、「嘘をついていた」と母に謝りました。すると後にも先にもこの一度だけですが、鬼のような形相でピンタされ「今すぐ友達に謝ってこい」と言われました。すぐにその友達に謝りに行くと、友達のお母さんは「仲良くしてあげてね」と小学生の私に深々と頭を下げられたのです。その姿を見て、とても反省したことを今でも鮮明に覚えています。これがきっかけで、いい意味でのガキ大将になろう、弱い者がいたら助けよう、と自分の中で誓いました。

東名鍛工株式会社 代表取締役社長
宮嶋 俊介



Let's Goより Follow Me

▶ 宮嶋 俊介 (みやじま しゅんすけ)

1972年、滋賀県出身。大学を卒業後、大手通信会社での営業職を経て、大阪アメリカ村で洋服屋の店員やバーの店長など、さまざまな職を経験。30歳の時、家業の株式会社ミヤジマに入社。2011年に常務に就任。2016年に事業譲渡により東名鍛工株式会社の代表取締役社長、2021年に株式会社ミヤジマの代表取締役社長に就任し、シャフトの鍛造専門メーカーとして日本のモノづくりを支えている。

▶ 東名鍛工株式会社

〒424-0053 静岡県静岡市清水区渋川3-12-10

TEL 054-345-2495

<https://www.tomei-tanko.com/>

大学を卒業後は、当時学生人気ナンバーワン企業の大手通信会社に就職しました。入社後は自ら志願して、高額で売りづらいことから同社の営業の中でも一番難しい、と言われていたOA機器の販売を任せてもらいました。新人の私は、なかなか結果が残せなかったのですが、飛び込み営業を展開し、自ら販路を開拓していきました。おかげさまで、新人としてはかなり成績もよかったと思います。同期のメンバーは、就職戦線を勝ち上がった猛者ということもあり、個性的なメンバーばかりで、彼らとのサラリーマン生活はとても楽しく、会社もとてもいい会社ではありましたが、六年ほど勤めたところで退職。商人の道を極めたいと考え、大阪アメリカ村に飛び込み、約三年、洋品店の店員やバーの店長、DJなど、やりたいと思うことを一つでも多く経験させてもらいました。

兄を支えるために家業に入社

三十歳になった頃、独立を考えていることを実家に報告するために帰省した際、父から「戻ってこないか？」という予想外の言葉をかけられました。実家は株式会社ミヤジマという鍛造メーカーで、兄が家業を継いでいました。実は父の代から兄弟全員が同じ会社で苦勞し、家族経営はうまくいかないと思っていたようで、小さい頃からずっと「家のこと

は気にせず、好きなことをやれ」と言ってくれていました。それが「兄を手伝ってやってくれないか」という、父からのまさかの申し出に、最初は大変驚きました。しかしながら、こんな自分でも役に立てるなら……と、最後まで自由奔放にさせてくれた父や家に恩返しをしたいという一心で、それまで銀色だった髪をバリカンで剃り落とし、家業に入る決心をしました。当初は兄弟の阿吽の呼吸でうまく仕事ができると思っていました。が、現実には甘くありません。兄弟経営ゆえの難しさや古参の社員との確執もあり、多くの紆余曲折がありました。それでも「楽な仕事などない！」をモットーに数々の困難を乗り越え、二〇一一年からは常務に就任しました。そんなとき、同業である静岡県東名鍛工株式会社と、結果的に社員の雇用と、高度な鍛造技術を残したいとの思いから、二〇一五年に東名鍛工株式会社をグループ会社とし、経営の再建をしていくことになりました。

工場の美化からスタートした社長業

二年目からは私が東名鍛工株式会社の社長となり、経営の立て直しを任されることになりました。しかし、工場の活気のないと想像を絶する汚さに言葉を失いました。床面は油

混じりのヘドロで汚れ、トイレも詰まって流れない。いまさら掃除をしても仕方がないから……という雰囲気でした。また、道具も使いっ放しで放置され、全く気持ちが悪いです。鍛造設備自体もボロボロで、いつ壊れてもおかしくない状態でした。

製品に対してはルーズな価格設定で、実際に工程ごとに金額を計算してみると、ほとんど利益が生み出せないような、恐ろしい現状が見えてしまいました。

しかしながら引き継いでしまった以上、腹をくくり、まずは人に見せられる工場を目指し、自分一人でコツコツと掃除をすることから始めました。それでも、なかなか綺麗にならず、ミヤジマから助っ人をお願いすることに。すると、三ヶ月を過ぎた頃から「自分の職場だから……」と一人、二人と掃除をする社員さんが増えていったのです。社員さんの「素直さ」と私から伝線した「情熱」も相まって、工場内は見違えるように綺麗になりました。これによって、お客様の見方も変わってきます。以前の東名鍛工を知っている方もたくさん来られましたが、この工場内の変わり方に、みなさん一様に驚かされていました。

このときの経験で分かったことは、会社には「命」が宿っていなければならないということです。その命を吹き込むのは社長の役目なので、私は困難にぶち当たったとき、いつも「レッツゴー」ではなく「フオーミー」という心持ちで臨むことにしています。ときには船底に降りて一緒にオールを漕ぐ勇気がなければ、社長は務まらず、舵取り次第で組

織はいくらでも変わることができると実感しました。

目指すは“Made in 東名鍛工”のモノづくり

お客様からの依頼に添って鍛造を行うことは大切です。しかし、せっかく社長を任せていただいたのですから、会社をもっと活性化していきたいという想いを持っています。

そのためには自分たちがイニシアティブを握れるような、面白い製品を生み出すことが重要だと考えています。世間から注目を集められるような“Made in 東名鍛工”みたいなオリジナルの製品づくりにチャレンジしていきたいですね。

思い通りにいかないことも多いですが、自分に与えられたこの鍛造という仕事を通じて、変えて良いものといけないものを見極めながら、この荒波を乗り越えていきつつ、世の役に立っていきたいと思います。

これからの日本を背負う若い方々にお伝えしたいのは、まずは何でもチャレンジしてみる、ということ。私はそうやっていろいろなことを経験し、いろいろな人との出会いにつながり現在があると思っています。とにかく行動ありきでより良い人生にしていってもらいたいです。熱く生きましょう！

KENJA GLOBAL

Selection

Let's Go
Follow Me

宮嶋 俊介

東名鍛工株式会社 代表取締役社長



KENJA GLOBAL